

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立府中けやきの森学園 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成
事務局長：主幹教諭（教務主任）
事務局員：主幹教諭（B部門小中学部担当）、主幹教諭（B部門高等部担当）2名 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長3名、経営企画室長、主幹教諭4名 計9名
- (4) 協議委員の構成
渡部 匡隆氏（横浜国立大学 教授）
宮崎 家光氏（株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ 管理本部総務人事部 担当部長）
澁谷 和彦氏（都立府中療育センター 院長）
成清 敏治氏（府中市立府中第二中学校 校長）
田中 憲二氏（ハローワーク府中 府中公共職業安定所 所長）
柳澤 智仁氏（多摩府中保健所 歯科保健担当課長）
高橋 美佳氏（社会福祉法人あけぼの福祉会 地域生活支援センターあけぼの 所長）
松崎 伸一氏（NPO法人三鷹はなの会 本部事務局 理事長）
高木 かほり氏（調布市福祉健康部子ども発達センター センター長）
武田 恭子氏（都立府中けやきの森学園 PTA統括会長） 計10名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会の開催日時、出席者、内容

第1回 令和5年7月6日（木）10時05分から11時40分

出席者：内部委員8名、協議委員8名

内容：①校長挨拶 ②令和5年度学校経営計画について ③教育活動の実践見学
④意見交換

第2回 令和5年11月8日（水）10時05分から11時50分

出席者：内部委員8名、協議委員9名

内容：①校長挨拶 ②令和5年度学校経営中間報告について ③教育活動の実践見学
④意見交換

第3回 令和6年2月27日（火）10時05分から11時45分

出席者：内部委員8名、協議委員5名

内容：①校長挨拶 ②令和5年度学校評価アンケート結果及び分析について ③意見交換
④次年度への提言について

(2) 評価委員会の開催日時、出席者、内容

第1回 令和5年7月6日（木）9時30分から10時02分

出席者：内部委員3名、評価委員2名

内容：①学校運営連絡協議会評価委員会実施計画について
②令和5年度学校評価アンケートについて

第2回 令和5年11月8日（水）9時30分から10時00分

出席者：内部委員3名、評価委員2名

内容：①学校評価の基本方針について ②学校評価アンケート項目・調査手順について

第3回 令和6年2月27日（火）9時30分から10時00分

出席者：内部委員3名、評価委員2名

内容：①学校評価アンケートの結果及び分析について ②次年度への提言について

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

第1回：12月実施

全校児童・生徒 対象：411人 回収：304人 回収率：73.96%

保護者全員 対象：411人 回収：307人 回収率：74.69%

全校教職員 対象：223人 回収：223人 回収率：100.00%

(3) 主な評価項目

保護者、教職員

児童・生徒の人権に配慮したQOL向上につながる学び、教育方針や取り組み内容の周知、授業改善、個別指導計画における3観点評価、安心・安全な学校づくり、GIGA端末やスマートスクール端末の効果的な活用の推進、健康教育、生活指導、感染症予防対策、教職員のライフワークバランスの推進

全校児童・生徒

授業、学校生活に関わること

(4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

- ・保護者のアンケートへの回答率が向上した。
- ・アンケートの回収率は出ているが、回答者の内訳がないので、分析が難しい。次年度のアンケートは回答者の内訳が分かった上で分析できるとよい。保護者アンケートから、学校への満足度の高さが見えるが、判断できないという評価も少なからず見られた。
- ・教職員のライフワークバランスについての満足度が低い。PTAとしても教員の負担を考えると、様々な協力を気軽に頼めなくなっている。よい方法を探っていく必要がある。
- ・児童・生徒のアンケートに、「避難訓練が怖い」、「夏の教室が暑い」などの具体的な内容が書かれている。どのようにフィードバックしていくか。
- ・ICTの活用状況が保護者に伝わっていない状況がある。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・昨年は保護者からのアンケート回答はフォームのみの集約であったが、今年度は紙での回答も選択できるようになり、回収率が向上した。しかし、さらに向上するように他校のアイデアなどを取り入れながら、引き続き取り組むことを期待する。
- ・保護者の回答について、10項目のうち5項目で満足が8割以上であった。一方、満足度が6割を下回る項目も3つあり、原因分析が必要である。「判断できない」という回答について、否定はしないが満足できないというのか、取組内容が分からないので答えられないのかで意味が異なってくる。学校で行われている教育活動を保護者に分かりやすく伝えることが課題。
- ・教職員のライフワークバランスを学校としてどのように取り組んでいくのかが、大きな課題である。教職員の仕事量に偏りがあるため、均衡化をどのように図るかという問題がある。ライフワークバランスについては大規模な取組は負担が大きいため1分、2分から勤務時間を短縮するように取組んでいくのがよい。
- ・児童・生徒のアンケート回答に書かれた「声」に向き合い、児童・生徒と対話することが大事である。
- ・ICTの活用について、保護者の学校評価アンケートで30パーセントが判断できないと評価していることから、学校からの情報発信が必要である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

- (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果
- ・学校経営計画、学校経営中間報告を学校から保護者に発信し、学校評価アンケートをとったことで、保護者から具体的な評価を得ることができた。その内容を学校運営協議会で共有し、意見をもらうことで、学校の課題に対する解決方法を見出すことができた。
 - ・関係機関と情報共有する機会を得ることで、社会の中での学校の役割を理解することができた。
 - ・協議会委員より様々な視点で学校の教育活動に意見をもらうことで、社会に開かれた学校の実践につながった。

- (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
- ・学校の教育活動をどのように保護者に発信していくか。学校日より、授業参観、保護者会に加え、保護者会などの動画配信を行うなど、積極的な発信方法が求められている。
 - ・ライフワークバランスは社会全体の問題である。特定の職員に負担がかかっていたり、仕事の均衡化が図れていなかったり、根本的に解決しなければいけない問題がある。抜本的な方法は見つけられなくとも、少しずつでもどのように取り組んでいくかが課題である。
 - ・ICTを活用した授業実践をどのように保護者と共有するかが課題である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

- (1) 学校運営
- ・児童・生徒のQOLの向上や安心・安全な学校づくりに向けて確かな力を付けられるよう、教職員一人一人の専門力の向上を図る。
 - ・本校の教育活動、ICT機器活用、研究活動等の学校の取組を積極的に情報発信する。
- (2) 学習指導
- ・3観点評価に基づき、児童・生徒への指導と評価の一体化を図る。
 - ・教職員はICT機器の活用をより進め、児童・生徒の教育効果を高めるのと併せ、保護者と授業実践についての共有を図る。
- (3) 特別活動
- ・新型コロナウイルス感染症で制限されていた行事を再開し、児童・生徒が主体的、意欲的に参加できる学校行事を行う。
- (4) 生活指導
- ・SOSの出し方について、困ったときには相談することの大切さを考えさせ、児童・生徒の実態に応じた取組の充実を図る。
 - ・避難訓練や防災宿泊訓練等、地震や火災の他、風水害等、さまざまな自然災害に関する学校の安全に関する危機を想定し、防災等危機管理体制を構築する。
- (5) 進路指導
- ・児童・生徒の将来の生活を見通したキャリア教育を充実させるとともに、小学部から高等部の卒業を見据えた一貫性のある指導を行う。
 - ・保護者向け進路セミナーの開催や保護者会での説明を通じて進路に関する最新の情報を発信する。
- (6) 健康・安全
- ・学校保健計画に基づいた健康教育及び学校医、学校歯科医、学校薬剤師等と連携した組織的な健康教育を推進する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 10人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

- ・アンケート調査等を行っていないが、各協議委員から、学校の取組について評価していただき、学校運営や今後の改善について期待を寄せられており、概ね良好であると判断する。

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

- ・参加実績なし

8 その他

- ・特になし。